

IFMA2008(ケルン展)

ドイツ、ケルン国際見本市会場にて、自転車展示会「IFMA2008」が2008年9月18日(木)～21日(日)の4日間開催された。同展は、欧州最大の自転車市場であるドイツを重視する企業や多くのユーザーが詰め掛ける国内向け展示会である。今年からオープンした新しいホール8に一部会場を移したものの、昨年全体を使用したホール6は半分しか利用しておらず、展示面積は昨年の3ホールから今年は実質2.5ホールに縮小した。

- 主 催： ケルンメッセ有限会社
- 会 場： ドイツ・ケルン国際見本市会場
- 会 期： 2008年9月18日(木)～21日(日) 4日間
- 展示会場/面積： ホール6、7、8及び屋外エリア/50,000㎡(前年65,000㎡)
- 入場者数： ビジネスデー18、19日： 9,000人(前年20,000人)
一般開放日20、21日： 23,000人(前年25,000人)
- 出展者数： 34カ国・地域 487社—ドイツ国内298社、国外189社
(前年：36カ国 592社—ドイツ国内317社、国外275社)



ジャイアント



ヘラクレス

展示会概要

かつてIFMA(ケルン展)は、欧州を代表する自転車、オートバイ合同の大規模二輪車展示会であった。しかし、EICMA(ミラノ展)との競合やEUROBIKEの台頭などにより、次第に国際展示会の地位からドイツ国内向け展示会へと規模縮小に歯止めがかからなかった。一足先にミラノ展は、オートバイとの合同展に戻ったが、IFMAは今回で最後となることが展示会事務局より発表されており、44年間の歴史に幕を閉じることになった。

今年の出展社数は、前年比18%減の34カ国487社、ビジネスの来場者は、前年比55%減の58カ国9,000人と激減した。サイクリストや愛好者などの一般参加者は、前年比8%減の23,000人と健闘はしたものの、出展社、来場者共に昨年を下回る結果となり、有終の美を飾ることは出来なかった。

ドイツ国内出展社は前年比 6% 減となり、海外出展社は同比 31% もの大幅減となった。一般的に出展者数は減っている中でも、ドイツ市場への最大輸出国である台湾からの出展社は昨年 57 社から 27 社と半減した。中国も 32 社と昨年 69 社から同じく半減した。欧州諸国では最多参加数のオランダも 23 社と昨年より 14 社も減ってしまい、同展は本年を持って終了することが事前に分かっていたためか寂しい内容であった。

昨年出展していなかったキャノンデールは、小さなブースで出展していた。しかし、STEVENS は、共同購入組織 (BICO) 内展示のみで、今年は自社ブースを出さなかった。その他、EUROBIKE には大きなブースを持っていたゴーストや BERGAMONT など IFMA には出展を見送った。



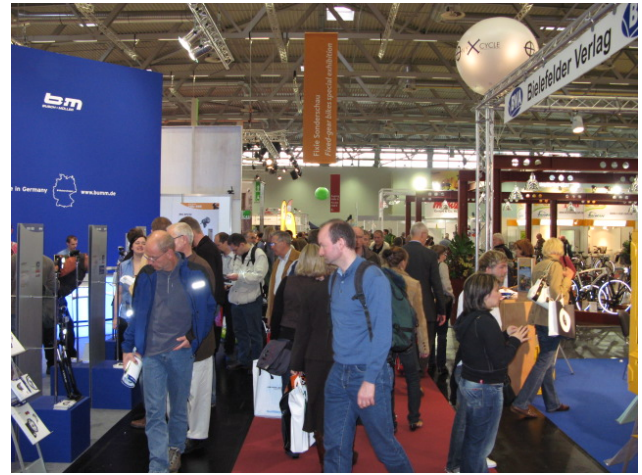
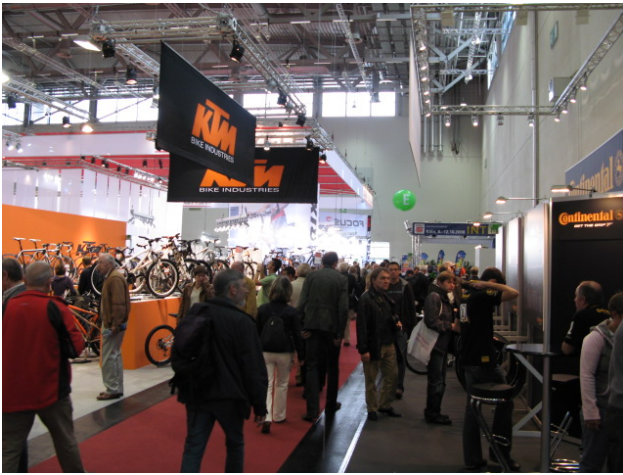
ZEG のスポーツ車ブランド「BULLS」



キャノンデール

各社の主要出展物はスポーツ車であるが、ドイツで最も人気の高いトレッキング車も重要視されていた。派手なロゴやデザインのスポーツ車とは違い、色も黒、紺、銀などが好まれ、シンプルなデザインのものが多い。しかし、サスペンション付前フォーク、サスペンション機能付きシートポスト、頑丈な荷台、照明など装備は充実し堅牢な作りである。スポーツ車のカーボンフレーム化の影響を受け、これらの車種でも上位機種にはカーボンフレームの高級車まで出現している。ドイツでは長距離のツーリングが盛んであり、付属品としてのバッグ等のアクセサリ類も充実していた。また、出版物や地図、ツーリング、旅行などのインフォメーションブースが比較的多いのも特徴的であった。

また、近年、人気の電動アシスト自転車の試乗コーナーには人々が列をなし、自転車は試乗してじっくりと検討し購入するというドイツの消費者志向を現していた。同車種でも折りたたみ機能や小径車など、他社との差別化を図ろうとする動きも見られた。今年で終了することが決定し、初日から 2 日間のビジネスデーは来場者もまばらな状況であったが、一般公開日、特に日曜日には多くのユーザーが詰め掛け、各ホールとも活気に溢れた。ドイツ国内ユーザー向けの自転車ショーは必要であり、まだ IFMA の役割もあったのではないかと思わせる光景であった。



最終日に多くの来場者で賑わう様子（左；ホール 8、右；ホール 7）

JBPI ブース

昨年から IFMA に JBPI ブースを復活させ、小間面積も 30 m²に拡大し、ホール 7 中央のメイン通路に面した場所に出展した。今年は、三ヶ島製作所、メダリストプランニング、ミズタニ自転車及び NEC トーキンの 4 社と共同出展を行った。

今回、ミズタニ自転車から出品された折りたたみ自転車は、欧州販売網はなくインターネット上で日本でのみ販売されている製品で、本体価格が約 1,600EURO という高額にも関わらず、購入希望者が出現するなど、日本製の高品質自転車として詰め掛けたユーザーの注目を集めた。今回は試験的な出展ではあったが、欧州市場に向けた確かな手ごたえを感じていた。

また、ウェア類を出展したメダリストプランニングは、同社の高機能生地が数社の欧州自転車メーカーの目に留まり、現在も取り扱いについて交渉を続けている。更に今回は、現在、欧州市場でも最も成長が期待される電動アシスト自転車の市場動向調査のため、日本のバッテリーメーカー、NEC トーキンが参考出展を行った。最近の同車種販売動向には、日欧両企業から注目が集まっている。このように、日本製品も欧州市場で可能性があると感じた矢先の IFMA 終了、日本企業にとって欧州進出の機会を一つ失うことは残念である。



共同出展社（メダリスト）



共同出展社（三ヶ島製作所）



共同出展社（ミズタニ自転車： 左；出展車、右；取り扱い説明の様子）

望まれる新しい形の展示会

IFMA 最大の出展者であり、欧州で最も有力な購買団体であるドイツ二輪車共同購入組合（ZEG）では、傘下会員である自転車小売専門店を招待しニューモデルのお披露目の場として IFMA を活用してきた。今回の IFMA 終了を踏まえ同組合代表は、従来のメッセ主催の自転車展ではなくドイツ自転車産業界主導による国際的かつビジネス客もユーザーも集える新しい自転車展示会が必要であると述べている。

ZEG では、現在、世界最大規模の EUROBIKE はメッセ会場も既に出展者で一杯、交通の利便性も悪く、慢性的な宿泊所不足など、多くの参加者が不満を持ちこれ以上の発展拡大は望めないとしている。大きな見本市会場、国際空港、交通アクセスの良さ、更に十分な宿泊施設等のインフラ設備を有する国際的なドイツの都市、例えば、フランクフルト、ミュンヘン及びハノーバーなどでの開催を望んでおり、それはフリードリヒスハーフェンでも、ケルンでもないとしている。

来年、IFMA が無くなり次に何処に注目しているのか、いくつかの出展社に尋ねたが、チェコのブルノ展、IFMA と同時期開催中のイタリア、パドバの新展示会、または来月開催のオランダのバイクモーションなどの名前が挙がったが、どれもドイツ市場をターゲットにする出展社にとって代替候補とは言い難く、多くの出展社は困惑し、当面は静観するしかないといった様子である。

IFMA 主催者のケルンメッセでは、来年 2009 年は自転車展を開催せず、翌々年 2010 年 10 月 13 日～17 日の 4 日間開催されるオートバイ展示会 INTERMOT に自転車を統合し二輪車展として再開予定である。それに対しドイツ自転車産業界がどのような反応を示すか、今後の動向に注目が必要である。

以 上

（デュッセルドルフ事務所）

「参考」

表： IFMA2008 国別出展者内訳

国名	出展者数	国名	出展者数
ドイツ	298	スロベニア	1
オランダ	23	スロバキア	1
イタリア	18	ルーマニア	1
オーストリア	9	リトアニア	1
スイス	8	チュニジア	1
スペイン	7	米国	4
ブルガリア	7	カナダ	2
フランス	6	中国	32
ベルギー	6	台湾	27
ポーランド	3	日本	7
英国	2	インド	5
デンマーク	2	香港	3
フィンランド	2	パキスタン	2
ハンガリー	1	バングラデッシュ	2
チェコ	1	韓国	1
スウェーデン	1	ベトナム	1
ギリシャ	1	スリランカ	1
計 34 カ国・地域			487